

未来を拓く技術の森

森林・林業技術視察プログラム



令和8年4月



林野庁 近畿中国森林管理局
森林技術・支援センター

Forest Technology and Support Center

目次



<植栽>

- メニュー 1 : 大苗・通年下刈り
- メニュー 2 : 早生樹センダン
- メニュー 3 : 早生樹コウヨウザン
- メニュー 4 : エリートツリー (ヒノキ)
- メニュー 5 : 低密度植栽

<間伐>

- メニュー 6 : 列状間伐

<針広混交林化・複層林施業>

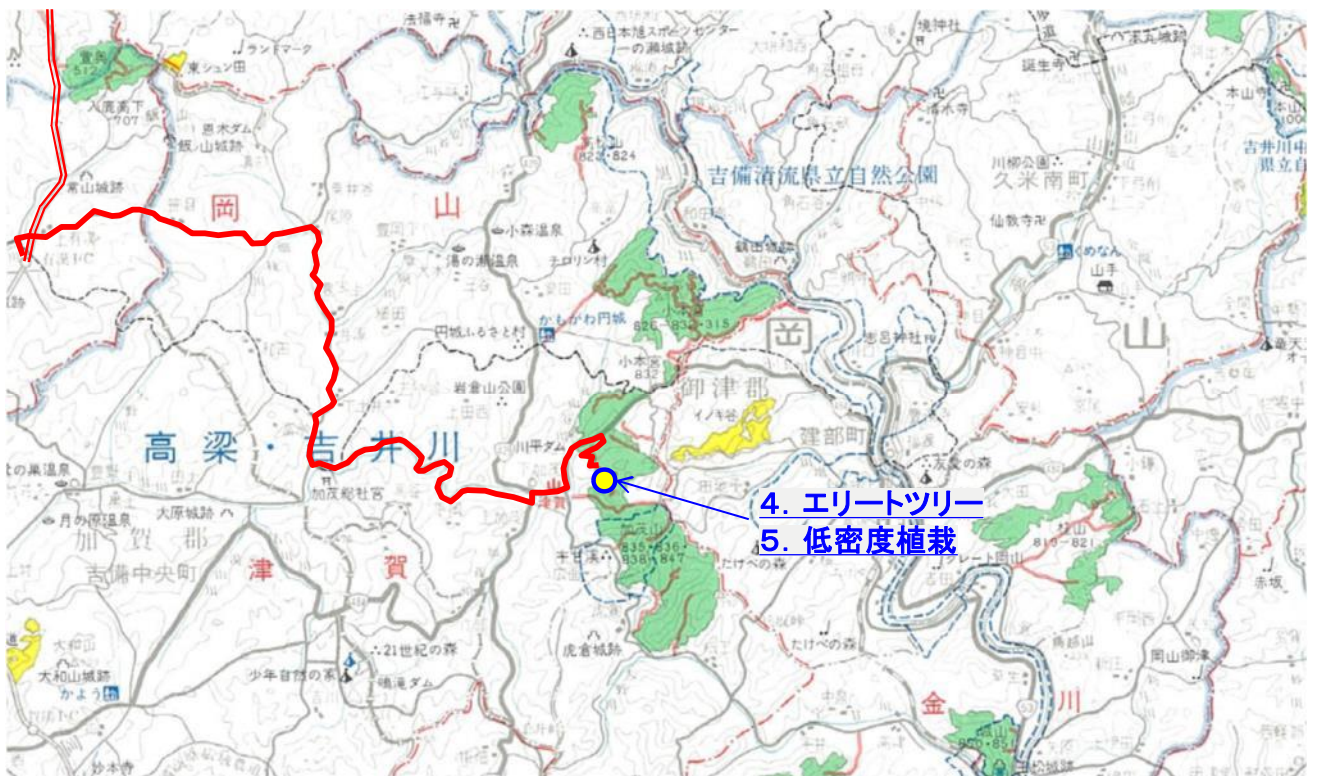
- メニュー 7 : 針広混交林化 (列状間伐の実施)
- メニュー 8 : 針広混交林化 (天然広葉樹の活用)
- メニュー 9 : 複層林施業 (帯状伐採)

<その他>

- メニュー 10 : 里山広葉樹林の活用・再生
- メニュー 11 : スマート林業
- メニュー 12 : ノウサギ捕獲罠

※出張講座 (座学のみも含む) も対応します。

視察プログラム位置図



メニュー1：大苗植栽、通年下刈り

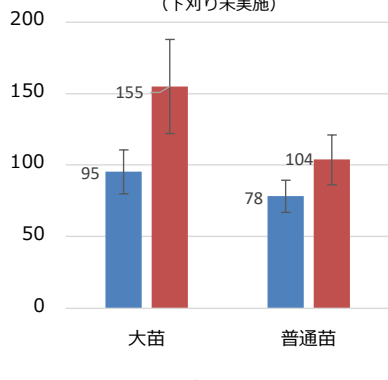
研究課題名：コンテナ大苗の植栽工期と初期成長に関する検討

場 所	岡山県新見市 釜谷国有林598む林小班
概 要	スギ・ヒノキの大苗と普通苗を植栽して植栽コストを比較するとともに、下刈り時期ごとに初期成長を調べ、下刈りの低コスト化、省力化の可能性を検討。（令和6年3月植栽）
視察のポイント	○大苗の植栽コスト ○スギ・ヒノキ大苗等の下刈り時期ごとの初期成長
所要時間	2時間～（車移動：センターより30分（片道）、現地視察：60分～）

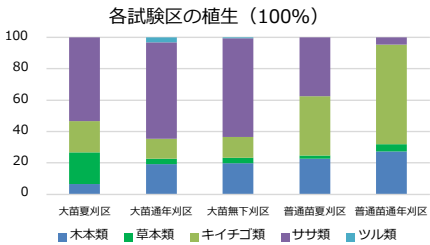
設置している試験区と下刈り時期

		夏下刈	通年下刈	無下刈
スギ	大苗	R7.8	R7.11	-
	普通苗	R7.8	R7.11	未設置
ヒノキ	大苗	R8予定	R8予定	-
	普通苗	R8予定	R8予定	-

2成長期のヒノキの平均樹高(cm)
(下刈り未実施)



試験地の状況（令和7年8月スギ下刈り前）

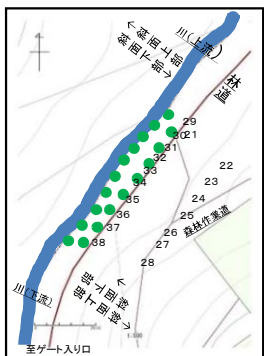


Forest Technology and Support Center

メニュー2：早生樹センダン

研究課題名：企業ニーズを捉えた早生樹植栽試験（センダンの成長量比較）

場 所	岡山県新見市 三光山国有林591り2林小班
概 要	スギ・ヒノキに比べて成長が早く、材質も良い早生樹センダンを植栽し、植栽適地や施肥の有無による成長の違い等について検証。（H27(2015)年3月26日植栽） ※近中局管内にはセンダン試験地が他に12試験地有り
視察のポイント	○瀬戸内式気候での早生樹センダンの生育状況 ○施肥の有無による成長の相違
所要時間	1時間10分～ （車移動：センターより40分（片道）、現地視察：30分～）



11年生時点
(植栽から10成長期後)
R7 (2025) 年10月撮影

成長状況	H27 植栽時	R7 (H37) 10成長期後
根元径	0.8cm	→ 28cm
胸高直径	—	→ 20cm
樹高	69cm	→ 10m

Forest Technology and Support Center

メニュー3：早生樹コウヨウザン

研究課題名：企業ニーズを捉えた早生樹植栽試験（コウヨウザンの成長量比較）

場所	岡山県新見市 赤滝国有林526に1林小班
概要	スギ・ヒノキに比べて 成長が早く 、材は スギの代替 として利用可能な コウヨウザン を植栽し、植栽適地や獣害（ノウサギ）被害の影響、萌芽状況等の検証を実施。 (H27(2015)年10月28・29日植栽)
視察のポイント	○コウヨウザンの生育状況、スギとの成長比較 ○ノウサギ被害の状況や被害対策、萌芽による再生状況
所要時間	1時間30分～ (車移動：センターより30分(片道)、現地視察：30分～)

早生樹コウヨウザン試験地位置図



11年生時点
(植栽から10成長期後)
R8 (2026)年3月撮影

成長状況 (平均値、R7は胸高直径)

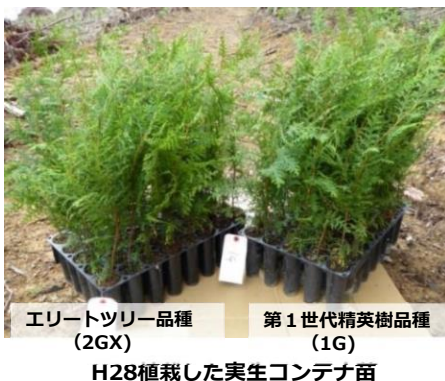
		植栽時	10成長期後
コウヨウザン	根元径	9mm	115mm
	胸高直径	51cm	731cm
	樹高	49cm	394cm
スギ	根本径	7mm	46mm
	胸高直径	49cm	394cm
	樹高	49cm	394cm

Forest Technology and Support Center

メニュー4：エリートツリー（ヒノキ）

研究課題名：ヒノキエリートツリー（実生コンテナ苗）の生育実証試験

場所	岡山県加賀郡吉備中央町 加茂山国有林839に2林小班
概要	ヒノキの エリートツリー 品種（2GX）と第1世代 精英樹 品種（1G）を植栽し、 初期成長の比較 等を実施。下列の低減の可能性等を検討。 (H28(2016)年夏～H29 (2017) 春に植栽)
視察のポイント	○エリートツリーの 初期成長 ○コンテナ苗植栽時期による 成長の相違
所要時間	3時間30分～ (車移動：センターより1時間30分(片道)、現地視察：30分～)

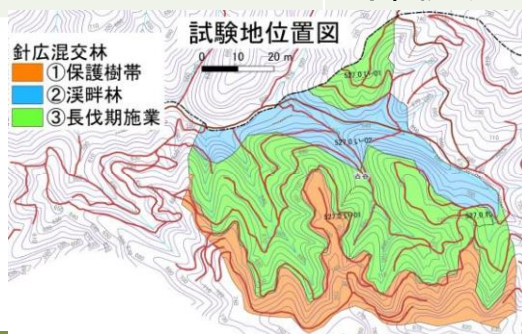


Forest Technology and Support Center

メニュー7：針広混交林化（列状間伐の実施）

研究課題名：一斉針葉樹林への広葉樹等導入技術の開発

場所	岡山県新見市 古谷国有林 527い1、い2、い3、れ林小班
概要	45haのスギ、ヒノキの一斉人工林(S36(1961)年植栽)を①尾根筋等の将来 保護樹帯 とすべき区域、②溪流沿いの 溪畔林 とすべき区域、③ 長伐期施業 を実施する区域に区分し、①及び②については、将来広葉樹林に誘導するために現存する 広葉樹の成長促進 と木本性の下層植生の増加を図るとともに、③については効率的な施業により 下層植生が豊かな健全な林分 に誘導。
視察のポイント	○列状間伐実施後（平成19～20年度）の高木性広葉樹の状況、3伐6残の幅広の列状間伐の状況
所要時間	2時間40分～ （車移動：センターより50分（片道）、現地視察：60分～）



Forest Technology and Support Center

メニュー8：針広混交林化（天然広葉樹の活用）

研究課題名：天然生広葉樹を活用した低コストな針広混交林造成技術の開発

場所	岡山県新見市 古谷国有林 527へ1林小班
概要	皆伐跡地に自生するヤマザクラ、クリ、ホオノキなど広葉樹の萌芽及び天然下種による稚樹を活用して、その間にヒノキを植栽し、① ヒノキ植栽本数の低減 及び② 地拵え、下刈り等の作業を簡略化 する低コスト造林の確立。併せて、建築材等として資源が減少している③ 有用広葉樹について成長過程 を調査し、建築材等が採材可能な育成技術を確立。
視察のポイント	○天然広葉樹の活用による ヒノキ植栽本数の低減 ○ 地拵え、下刈り等の省略
所要時間	2時間10分～ 車移動：センターより50分（片道） 現地視察：30分～

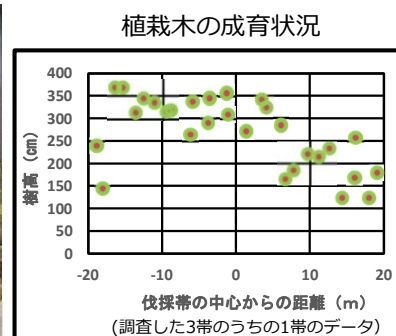


Forest Technology and Support Center

メニュー9：複層林施業

取組名：帯状伐採による複層林の造成

場 所	岡山県新見市 三室国有林582ろ1林小班
概 要	<p>国有林では森林の有する公益的機能の発揮を重視した管理経営を推進。水源涵養機能の発揮を重視する森林においては育成複層林への誘導等を推進。</p> <p>当該地は、スギ人工林を令和2年(68年生時)に帯状伐採し、伐採跡地に再造林した複層林施業地。</p>
視察のポイント	<p>○下木の成育状況</p> <p>○上下二段林との違い</p>
所要時間	2時間～ (車移動：センターより45分(片道)、現地視察：30分～)



Forest Technology and Support Center

メニュー10：里山広葉樹林の活用・再生

研究課題名：中国地方における里山広葉樹資源の有効活用及び天然下種更新技術に関する検討

場 所	岡山県新見市神郷町 釜谷597の、お、く、598い 菅ヶ峠597ま、け林小班外
概 要	高林齢となった 里山林 の森林資源を 有効に活用 することによって、森林を若返らせ、 ナラ枯れ被害や獣害の抑制 を図る。
視察のポイント	<p>○里山林の整備・活用手法</p> <p>○天然更新(天然下種更新、萌芽更新)の状況</p>
所要時間	2時間 (車移動：センターより30分(片道) 現地視察：60分～)

天然更新調査プロット

- プロット種: 無
- プロット種: 刈払
- プロット種: 地掻き
- プロット種: 未処理

アバマキの用途別内訳の調査結果

- 薪 (56.7%)
- 製紙用チップ (29.5%)
- 発電用チップ (12.0%)
- 木炭 (1.8%)

アバマキを活用した試作品の事例

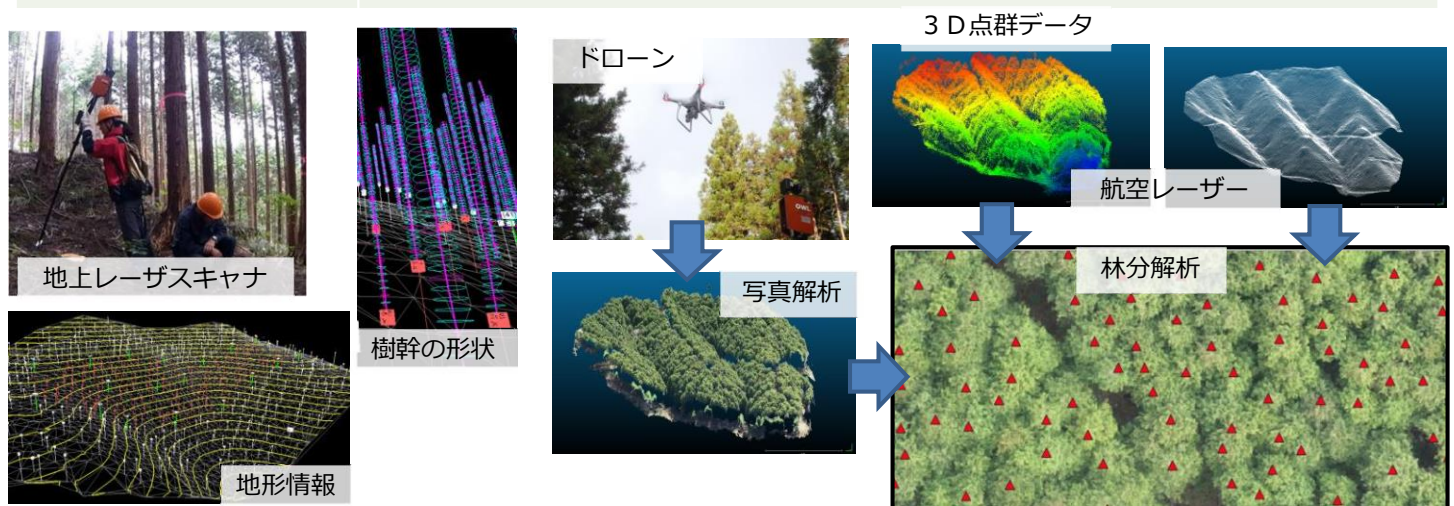
完成した製品

Forest Technology and Support Center

メニュー11：スマート林業

研究課題名：地上レーザースキャナ・ドローンの活用

場 所	岡山県新見市高尾786 森林技術・支援センター
概 要	地上レーザースキャナ、ドローンなど先端技術を活用した「スマート林業」の実証と普及。
視察のポイント	○地上レーザースキャナによる高精度な森林情報の収集 ○ドローンで撮影した写真を用いた林分解析
所要時間	1時間（森林技術・支援センター内研修施設）



Forest Technology and Support Center

メニュー12：ノウサギ捕獲罠

研究課題名：効果的に捕獲可能なノウサギ専用罠の開発

場 所	岡山県新見市 赤滝国有林526に1林小班
概 要	ノウサギ被害が全国的に増加傾向にあることから、誰でも簡単に設置、捕獲することができるノウサギ専用罠を試行。
視察のポイント	○ノウサギN型誘引捕獲罠の仕組み、設置方法 ○現地の枝条等を活用した捕獲罠の試行状況
所要時間	1時間15分～ （車移動：センターより30分（片道）、現地視察：15分～）



Forest Technology and Support Center

お勧めコース (ご要望に応じ別の組合せも可能です)

☆造林コース

(全日)

(半日)

☆森林施業コース

(全日)

(半日)

メニュー1
(大苗・通年下刈)



メニュー3
[早生樹
コウヨウザン]



メニュー5
(低密度植栽)



メニュー4
(エリートツリー)

メニュー3
[早生樹
コウヨウザン]



メニュー1
(大苗・通年下刈)

メニュー7,8
(針広混交林化)



メニュー6
(列状間伐)



メニュー9
(複層林施業)

メニュー6
(列状間伐)



メニュー9
(複層林施業)

時間の目安

(全日) 9:00~16:00

(半日) 9:00~12:00

又は

13:00~16:00

Forest Technology and Support Center

お勧めコース (ご要望に応じ別の組合せも可能です)

☆低コスト育林コース

(全日)

(半日)

☆バラエティコース

(全日1)

(全日2)

メニュー3
[早生樹
コウヨウザン]



メニュー2
(早生樹センダン)



メニュー1
(列状間伐)

メニュー5
(低密度植栽)



メニュー4
(エリートツリー)

メニュー7,8
(針広混交林化)



メニュー3,12
[早生樹
コウヨウザン
ノウサギ捕獲]



メニュー10
(里山広葉樹)

メニュー2
(早生樹センダン)



メニュー10
(里山広葉樹)



メニュー6
(列状間伐)

Forest Technology and Support Center

森林技術・支援センターの概要

国有林野事業は、公益重視の管理経営を一層推進するとともにその組織・技術力・資源を活用して民有林への技術普及や支援をすることなどにより、我が国の森林・林業の再生に貢献することが期待されています。

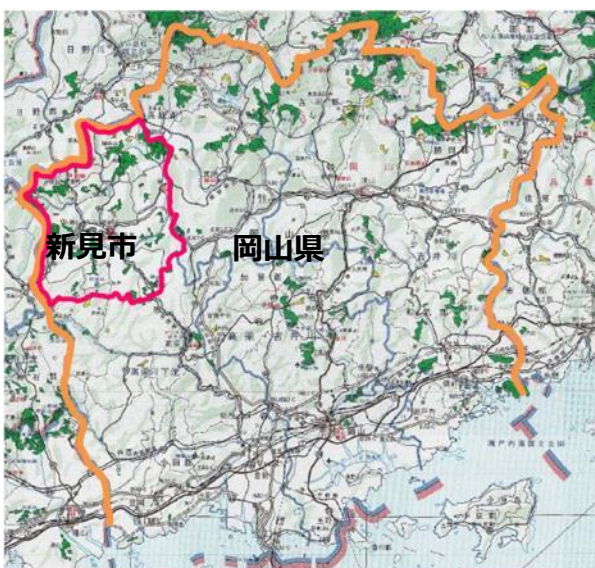
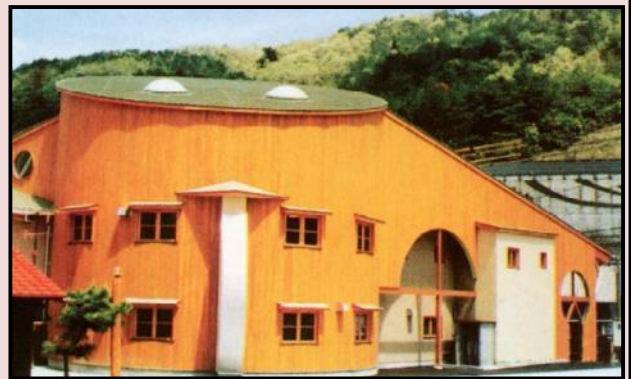
森林技術・支援センターは、全国7箇所にある森林管理局に1箇所ずつ設置されており、森林・林業に関する技術開発及びその成果の民有林への普及業務の中心を担っています。

■庁舎

新見市の木「ヒノキ」の伐り株、新見市の鳥「ウグイス」をモチーフとしてデザイン。
 所長室は、高梁川のせせらぎをイメージした壁。

■沿革

平成 3年2月	新見営林署として移転（新築）
平成 7年3月	森林技術センターに改組
平成 18年4月	市内森林事務所を配置
平成 25年4月	森林技術・支援センターへ改称



〒718-0003
 岡山県新見市高尾786-1



お気軽にお問い合わせください
林野庁近畿中国森林管理局
森林技術・支援センター
〒718-0003
岡山県新見市高尾786-1
TEL0867-72-2165(代)
E-mail:kc_gijyutsu@maff.go.jp